

只見町ブナセンターだより



ブナセンターの一年間を振り返って 一大災害の中で悪戦苦闘

鈴木和次郎（只見町ブナセンター館長）

大震災・津波・原発事故、そして豪雨災害に負けず！

今年度は、3.11の大震災とそれに引き続く福島第一原発の事故という極めて困難な中で始まりました。只見町は直接的な被害は受けなかったものの、放射能汚染の風評被害のあおりを受け、農産物の販売不振や観光への打撃も大きかったと言えます。そうした中で、只見の町民が強く意識したのは、やはり只見の“自然の真の価値”だったように思われます。ブナセンターも放射能汚染を受けていない豊かな、かけがいのない只見の自然を強く訴え、この逆境に立ち向かい、様々な活動を試みています。

4月から始まった「只見のユビソヤナギ展」、「世界のブナ展」そして各種講演会、観察会、さらに一方、河野昭一先生（ブナセンター名誉館長）の南方熊楠賞受賞を記念する第3回子供ブナサミットにも取り組みました。その矢先、私たちは、この只見の自然の厳しさ思い知らされることとなります。

7月末、奥会津地方を襲った集中豪雨は、各地に土砂崩れを引き起こし、洪水は住宅地を飲み込み、甚大な被害を引き起こしました。私たちは、こうした自然をどのようにとらえ、付き合っていくのかを真剣に考える必要に迫られたといっても良いかもしれません。しかし、真夏の空の下、懸命な復旧工事が進む中で、改めて只見の自然のすばらしさとその中で生活する只見の人々のたくましさを実感したのも事実です。

只見の自然は、いたるところで傷ついたものの、その本質的な部分には変化がなく、災害の爪痕も、次第に自然の力で修復されていくのを目の当たりにすることが出来ました。結局、こうした“災害”すらも、自然の長期的な変動の中での一断面、イベントでしかないということです。それは好むと好まざるとに関わらず、起こりうる現象ですが、そうした自然現象と上手く付き合っこそ、その恩恵を受けることにつながっていくものと考えます。

町民の協力の下での活動

さて、そんな困難の中、ブナセンターでは、「ブナと川のミュージアム」における展示の充実を図るため、広く町民に協力を呼びかけ、主に只見の生活に関わる民具や動物の

剥製標本などの多くの提供を頂き、展示内容が格段に充実したとの声もいただいております。また、年4回の特別展示（「ユビソヤナギ展」「世界のブナ展」「只見の自然を食べる展」「平田美紗子イラスト展」）を実施、それに関連するブナセンター講座も実施し、多くの来館者、受講者を受け入れております。

また、「只見の自然に学ぶ会」などと協力しながら行った探鳥会や春の植物観察会、教育委員会との協同で実施したホテル観察会、さらに「分校ふざわ」などの協力で実施した「太田木地師集落とブナ林を訪ねる会」など、自然と人々の暮らしの歴史を知る催しなどにも取り組んできました。また、只見町の公認ガイドなどで作る「案内人の会」からの要請を受けて、ガイド育成のための研修会および野外実習も実施してきました。

ブナセンターの業務は、単にブナセンターの職員だけで行えるものではなく、広く町内外の人たちの協力の下で、実施されるものです。今年度も、ブナセンター講座の講師の方々をはじめ、多くの方々の協力をいただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。

そして、新たな試み

只見ブナセンターは、豊かな只見の自然環境を保護・保全し、次世代にこれらを引き継ぐこと、只見の自然に関する情報を町内外の人々に提供すること、そして地域間交流を推進することを目的に設置されていますが、そのためには、只見の自然環境を知り尽くすことが重要です。そのための取り組みとして、調査・研究を始めています。

今年度は、只見の自然に学ぶ会のメンバーとともに、拡大するナラの集団枯損の実態調査や7月の豪雨災害後のユビソヤナギの実態調査、あるいはブナ種子の豊凶調査なども行っています。もちろん、ブナセンター独自での調査研究には限界がありますので、今後は大学、研究機関との連携を強化し、只見の自然環境を明らかにする取り組みを強めて生きたいと考えています。

一方、只見を訪れる方々から、只見はブナ林で有名だが、どこに行けばブナ林が見られるかとの質問がよくされます。限られた滞在の中で、ブナ林その他の自然に親しむ場所が強く求められています。そこで、ブナセンターは、檜戸のブナ林や蒲生のブナのあがりこ林、杉沢のユビソヤナギ林など6箇所を土地所有者や地域住民の理解と協力の下、「観察の森」の整備を進めようとしています。まずは、身近な森林で、只見の自然に親んでもらおうとの狙いです。

外に打って出る！

ブナセンターには、只見の自然やそれを拠り所とした生活を展示、紹介する「ブナと川のミュージアム」という小さな博物館を併設しています。この施設は、純粋に観光客を対象とした集客施設ではありませんが、出きるだけ多くの人に来館頂き、展示その他を楽しんでもらいたいと考えています。今年度は、地震災害とそれに引き続く原発事故、そして豪雨災害の中で、来館者は激減し、深刻な事態に陥っております。

そんな中、雪に閉ざされた冬季の事業として、只見の交流都市である千葉県柏市の中央公民館で、「只見と柏をつなぐ自然首都・只見展」を1週間にわたり開催。多くの柏市民に来場頂き、只見の自然を知ってもらうことが出来ました。

また、東京八重洲の福島物産館では、「只見の自然と暮らし」（講師：新国勇主任指導員）という講演会を開催、60名を超える参加者を得ることが出来ました。二つの催しとも、只見の自然を首都圏に情報発信する良い機会となったと思います。今後も、首都圏や県内で、このような催しを積極的に実施し、只見の情報発信に努めて生きたいと考えます。まずは、只見のために、そして只見に目を向けてくれる人たちのために職員一同頑張っていきます。今後とも、ご支援、ご協力をお願いいたします。

【活動報告】

●特別展示「只見の自然を食べる」にあわせて料理教室を開催

10月8日～11月30日に開催した特別展示にあわせて、ミュージアムの休憩室を利用した料理教室を3回おこないました。

10月15日「笹巻づくり」講師：本名ムツさん、目黒レイさん 参加者14人



11月5日「どんぐり餅づくり」講師：目黒レイさん 参加者7人



11月26日「お平と森の恵みのおこわづくり」講師：本名ムツさん 参加者11人



●ブナと川のミュージアム特別展示 「森と生き物を描く」 平田美紗子イラスト展

会 期：開催中～3月25日（日）

パネル39点のほか、連載中の『林業技術』などイラスト作品を展示しています。



●第14回ブナセンター講座 「自然を描く心と技」

講 師：平田美紗子さん（森林官）

日 程：12月11日（日）



第14回ブナセンター講座は、12月11日（日）午後1時半～3時、ただみ・ブナと川のミュージアムのセミナー室において開催しました。参加者は29人でした。

講師の平田美紗子さんは、国有林を管理する森林官です。現在は育児休暇中ですが、これまでに静岡県や群馬県の森林管理署に勤めてきました。その一方で、平田さんはイラストレーターとしても活躍しています。専門誌『林業技術』に、動植物の生態や山仕事について紹介する連載を続けています。講演では「自然の魅力を伝えながら、学術的にも正確なイラストを描く」ことの難しさを、失敗談を交えて楽しく語りました。動物の細かなしぐさや、まわりの植生に嘘がないように専門家のアドバイスを受けながら描いているそうです。

●自然首都・只見展

日程：1月31日（火）～2月5日（日）

会場：千葉県柏市中央公民館 かしわ市民美術サロン

展示内容：①只見町の自然および文化について説明したパネル24枚を展示

②只見町の自然に関する映像を上映

②つる細工製品およびミノなどの民具を展示

③只見町の特産品の展示

（商品は、只見町観光まちづくり協会より借用。品物は別紙参照）

④只見町に関連するパンフレットの配布

⑤只見町産米2合袋350個を無料配布

（自然首都・只見の恵みプロジェクト推進協議会より提供）

講演会：新国 勇 主任指導員による講演会を 3 回実施

演目は「只見町の自然と暮らし」で、スライド上映とクイズを活用

1 回目=2月4日 14:40~14:40、2 回目=2月5日 11:00~11:40

3 回目=2月5日 14:00~14:40

入場者数：1月31日は82人、2月1日は70人、2月2日は44人、2月3日は29人

2月4日は93人（うち講演会61人）、2月5日は71人（うち講演会、午前20

人、午後21人）。総入場者数は389人。（複数回入場者も1人としてカウント）

後 援：柏市、福島県南会津地方振興局

協力者：柏市役所地域支援課、猪俣かじ子氏と写真教室生徒一同、ふるさと大使、

今井初太郎氏、鈴木富佐子氏ほか



かしわ市民美術サロン入り口



パネル展示



パネル展示



つる細工や民具を展示



マタタビやヒロロなどの素材を展示



新国勇主任指導員による講演

●ブナセンター東京講演会 「只見の自然と暮らし」

日 程：2月25日（土）

講 師：新国 勇 ブナセンター主任指導員

2月25日（土）東京都中央区の貸会議室スペースTOKUにおいて、ブナセンターの東京講演会を開催しました。東京駅八重洲南口から徒歩3分という立地で、同ビルの1階には「福島県八重洲観光交流館」があります。

講師はブナセンター主任指導員の新国勇が務め、スライド上映をしながら、只見町の自然の特徴について解説しました。参加者は62名。



